

書評

永井良三 監修 杉山裕章 執筆
今井 靖, 前田恵理子 執筆協力

個人授業 心電図・不整脈 ホルター心電図でひもとく循環器診療

心臓血管研究所常任理事・研究本部長

山下 武 志

数多くいる循環器専門医といえども、その中でホルター心電図が好きな、あるいは得意な医師は少ないはずだ。このように書く自分自身がそうだったのだから、このことには確信が持てる。若いころ、心電図や心内電位はよくても、ホルター心電図だけはどうにも避けたかった。ましてや報告書を書くことは苦痛以外の何物でもなかったことをよく覚えている。その後、良き指導者を得て、数年後には東京大学附属病院中央検査部で院内すべてのホルター心電図の報告書を書いていたのだから自分自身が驚いてしまう。ホルター心電図を読むということ、これには良い指導者に出会って OJT で学ぶことが一番だ。

とはいっても、指導者に恵まれないときにどうしよう。誰もが教科書を当たると思う。しかし、ホルター心電図の教科書はとても少ないのだ。アマゾンで調べてみる

と現在購入可能なホルター心電図の教科書はたったの 4 冊しかない(しかも、そのうち 1 冊は筆者の師匠が編集されている。世間は狭い!)。心電図に関する教科書が数えきれないぐらいあることは極めて対照的だ。

このような中、ホルター心電図に関する教科書のわが国 5 冊目となるのが本書である。著者は新進気鋭の若手、杉山裕章医師で、『個人授業 心臓ペースメーカー—適応判断から手術・術後の管理まで—』に続く入門書第二弾として書かれている。第一弾と同じように、先生と生徒の会話という形に工夫された記述であり、一気に通読できた。

ホルター心電図を前にして、どのような順序であの大量の心電図を読むのか、その際にはどのような点に注意するのか、そしてどのような落とし穴があるか、おそらく著者自身の頭の中の読解順序で

目次が構成されている。最終的には、ホルター心電図のレポート作成を目標としているのでレベルの高い教科書といえる。しかし、そのレベルの高い部分についてはアドバンスとして別項目でまとめられているので、初学者にはこの項目を飛ばすことができるようにも工夫されている。

このシリーズの特徴は会話方式で心理的抵抗感を下げながら、レベルの高いところに挑戦するということにありそうである。その意味で、循環器内科専門医をめざす医師、そして生理機能検査室で働く技師に最も適している教科書だと思う。良い指導者に出会って OJT でホルター心電図を学ぶ環境が提供されるだろう。ホルター心電図があまり好きでない(と書いたら怒られそうだが)筆者にとっては、もうちょっと薄い本であってほしかった(笑)。

ホルター心電図に困ったとき、まずは書店でホルター心電図の教科書を探してみよう。数が少ないので、あなたに合った本はすぐに見つかるはずである。本書は現在そのような本のトップにならんとすることを予想している。

[B5 頁 344 2011 年 定価
4,200 円(本体 4,000 円+税 5%)
医学書院刊]